

宮城県産業教育審議会第3回専門委員会 会議概要

日 時 令和6年9月27日（金）午後2時から午後4時まで

場 所 県庁行政庁舎 第一会議室

出席委員 佐藤（千）委員、成田委員、佐々木（道）委員、小泉委員、橋浦委員、太田委員、岩本委員、昆委員、高橋（彩）委員、小池委員、志羽久委員、佐々木委員
以上12名全員出席

県出席者 菊田高校教育課長
伊藤高校教育課総括課長補佐
高橋高校教育課教育改革担当課長 他関係職員（事務局）

1 開 会

2 開会挨拶 菊田高校教育課 課長

3 報 告

(1) 宮城県産業教育審議会第2回専門委員会会議概要

4 協 議 （座長：佐藤（千）委員）

- (1) 提言素案に向けた論点の抽出及び整理について
- (2) その他について

[委員からの主な意見]

【 各学科の在り方 ～ 学校・学科・類型の在り方について 】

- ・設置が限定的となる水産とか農業とか工業を独立させて拠点校方式で残すのはどうか。
- ・プロパー（専門学科単独校）の高校は理想としては隣接した形で配置するのが理想。
- ・学校は古くから地域コミュニティの中心であるため、学校が無くなると地域の活力が失われてしまう。学びの形を追求した結果理想の学びから離れてしまうことがないよう、スクールバスや寮（舎監は棲み分けをする）、地域の下宿等ですべての生徒が学べなくなることは避ける。
- ・地域は人口減少が顕著だが、一方で高齢化に対応する防災とか福祉、看護、家庭などの学びは必要かもしれない。
- ・寮廃止の方向で動いてきたのは、舎監とか寮監を学校教員で賄っていたからという理由もある。舎監等の人材は別に雇い、家庭教育と言われるものを寮で施す形で学校教育と寮生活を切り離すことで棲み分けられる。
- ・ハブ校としての拠点校を設置することで、オンラインによる単位認定やスクールバスによる実習を実現できるのではないか
- ・商業、家庭、福祉、看護に関しては、比較的設置のハードルというのは低いように思う。門外漢なので的外れかもしれないが、普通科との併置ということも十分考えられるのではないか。
- ・「多能工」と言われている何でも屋が必要な時代になっている。

【 各学科・類型の質の在り方 ～ 工業 】

- ・機械系や電気系等ほどの産業からも求められる人材でどの地域にも必要ではないか。
- ・工業でいえばほとんどのすべての機械がもう電子化されている状況なので、機械と電気というのはもはや一緒にしてよいのではないか。
- ・北部工業団地に自動車関連企業が来た時代、黒川高校の学科改編で機械科が2クラスできたが、蓋を開いてみれば求人があまり来ず、ミスマッチが起きた経験がある。半導体の専門学科が必要かどうかは疑問だ。
- ・半導体については、文系の学生も全員関連知識として知っておいていいと思う。文系の学生にも科目の一部として半導体の基礎的なところをレクチャーしている大学もあると聞いている。本県でもその機会があってもいい。

【 同 ～ 商業 】

- ・商業はものづくり産業を支えるという意味で求められる人材であるため、各地域に残すべき。
- ・ビジネス体験とか人生体験ができる学科の構築という意味で、どんな仕事であっても必ずマーケティングや計算は必要で在庫管理もあるから、普通科や総合学科の中で商業科目が学べるような枠組みが必要。

【 同 ～ 農業 】

- ・この時代において、本物を扱って触れて学ぶ実習のある農業は大事。
- ・農業科で支援教育を包括するような形で、職員数を保っていくという取組も必要なのかもしれない。
- ・大崎地区等地區により農業が多い地域がある。
- ・（寮については）少子化の中で親御さんが寮に入れてまで農業を学ばせようと思うかは不透明ではないか。

【 同 ～ 家庭 】

- ・家政科では色々なことが経験でき、保育も介護も福祉もと色々な分野に目を向けられるのが家庭科のいいところで、自己探求的な学びの広がりもある。

【 同 ～ 看護 】

- ・先ほど、看護等は自由に場所を動かせるのではないかということをご提案いただいた。現在県南に唯一、白石1校だけとなっている。過去には古川女子高校にもあったので北と南にあったが、今は県南に1校となってしまい、近くの市内から来る生徒は1割未満で各クラスの3割から5割ぐらいは仙台から通っており、実習先もほぼ仙台圏。県北地区、大崎地区などからの生徒は、一人暮らしをすとか、家族で移り住んでくるということになり、県北の生徒の需要を考えると、仙台圏のあたりに、看護科を普通科と併設させていただけると、県北の生徒も学べるのではないかと考えた。

【 同～ 福祉 】

- ・福祉については学科にこだわらず普通科の中で選択科目として設置し、北から南まで点在させれば、高齢化社会に向けた人材育成、社会に貢献できる人材を送り出せるのではないか。
- ・中部地区には福祉教科を設定していないので、人口が多い仙台圏にもどこかで福祉科、福祉が学べる学校を設置してはどうか。

【 総合学科、多学科併設校へのアイデア 】

- ・現状では、一つの授業の中で系列連携をして、生徒が主体となって活動でき、良い学びの場となっている。一方で先生方が忙しく、連携して…と言いづらい実情だった。
- ・柔軟な単位制総合学科で、興味関心によって色々な分野の科目を勉強できるのが理想。
- ・専門学科は一体どういった人材を目指しているのか。選択を広げるという意味で多学科併設の形や大学のキャンパスのような形も新しく、良いのでは。
- ・拠点校からリモートで授業を配信したときに、実習は地元企業に行って、実習をその企業の方から教えてもらう取組も必要ではないか。
- ・生徒がちょっと学んでみたいという時に、自由に選べて学べるのがいいのでは。究極のところは総合学科で会社を作ってほしい。
- ・枠組みとか固定概念とか取り払って、子供たちのニーズにかなり合わせられる教育課程とか、その社会のニーズに合わせる取組という形を取らないと、総合学科の在り方として残っていけないかもしれない。

【新しい学校体制・制度について】

- ・子供たちがより進んで学ぶこと。それぞれが連携をしながら、今までないようなカリキュラムの改革であったり、掛け合わせだったり、新しいものを生んでいくというきっかけになる考えとして、教員の側のパラダイムシフト（規範や考え方、価値観の転換）が必要。
- ・そもそも水産、工業、農業、商業という決められた枠組みの中でどれかを選ぶことは、15歳の子供には酷ではないか。
- ・高校生という思春期に、自分はこの道で活躍したい、この職業に就こうという意識を醸成することが役割だと思う。
- ・成人年齢を考えても、18歳から19歳にかけての年に、自分のための自己探求の時間を作るというのを宮城県として考えてもいいのではないか。社会的な立場を持ちながら何かに挑戦することは、学生の特権である。自分のその強みを見極める時間を、子供たちに作ってあげたいし、その時間さえ確保できれば、普通高校の子供たちも専門高校の生徒も、例えば国内留学、県内留学、インターンシップ、ボランティア活動、社会奉仕活動など学びを深めるやり方はいろいろある。
- ・専攻科を持っていると分かるのだが比較的自由度な学びが展開できる。そういった意味では専攻科の設置というのが一つキーワードなのではないか。さ
- ・学びが広がっていったほうが、学びが面白いと感じられるのでは。自分がやりたいものが見つかったら専攻科まで学べるという、発達段階に合わせた学びを用意するのが良いのではないか。
- ・先生方の負担低減のためにも、地域の企業など専門的なところの企業をもっと活用していただきたい。

【長期的視点に立った学校の魅力の在り方】

- ・現段階では不可能であることはわかっているが、2つの学校に行けるようにしたらどうか。例えば普通科だが農学部に進みたい子が、特定の曜日だけ農業高校に通学して実習をさせてもらうような連携方法もあるのではないか。
- ・全日制高校というくくりには縛られず、専攻科を活かす等して4年間で学ぶことも可とすれば、同じ100単位をうまく割り振って学びを深められるのではないか。
- ・宮城県の不登校率は高いが、貴重な人材のはず。彼らの興味関心があれば、まずは高校に進学することを優先し、リモート学習やオンライン学習をでも、単位認定する。地方の生徒が仙台にある学校に進学したいという場合も、寮で受け入れるくらいの自由度を持たせてはどうか。いかに宮城県としてビジョンを持って子供を育てていくの

かの問題であって、自分たちの地区ではないからである。

- ・今後10年から20年経てば、AIやロボットの開発によって、おおよそ今の49%の仕事はなくなると言われている。今の子供たちの65%は、今ない職業に就くとも言われている中で、今ある単純なカテゴリーや大人の都合で分けていいのか悩む。

5 その他

(1) 今後の日程について

- ・第4回専門委員会 11月22日(金) 午後2時 県庁 庁議室(4階)
- ・産業教育審議会 10月25日(金) (予定)

6 閉会